

『いまさらキスシーン』

『いまさらキスシーン』 作・中屋敷法仁

【登場人物】

三御堂島ひより

※出演者は俳優一名。以下はすべて俳優の「台詞」。

【1】

せ、す、じ、を

ぴんと伸ばして、ワキをきゅってしめて、
心拍数の上昇、上昇を意識しながら、
国道4号線をひたすらに、ひたすらに走っております私は、
女子高生。

いや、正確には
女子高生、になったばかりの
女子高生。つまりなりたての
女子高生、でありますところのワタクシ
は、

背筋をぴんと伸ばして、ワキをきゅってしめて、
心拍数の上昇、上昇を意識しながら、
国道4号線をひたすらに、ひたすらに走っておりますその目的
は、

憧れの先輩、男前田トオル先輩の自宅の前を通過して
学校に登校するためでございます。

と申し開きをいたせば、
皆様は私が「恋に恋するキュートなハイティーンガール」と思し召し、
ラブコメみたいな展開が我が身に巻き起こることを期待されるでしょうが、
そこまで樂觀的になれるほど、私は若くはありません。

なので、万が一、先輩に出会えなかった場合のことを考え、
その時はその時で、国道4号線をひたすらに走るこの行為が
無駄にならないような保険はかけてあります。

すなわち、
私は中学生の時分より、駅伝選手としてなかなかの評価を受けており、
高校入学後は女子駅伝部で大活躍する野心ある故に、
これはつまりはトレーニング。単なるトレーニングです。
と言うこともできれば

私は中学生の時分より、頭脳明晰としてなかなかの評価を受けており、
高校入学後は東大入学を目指し受験勉強する野心ある故に、
ほーらこんなところに英単語帳が。英単語の勉強です。
と言うこともできる。

ので、国道4号線をひたすりに走るこの行為は、恋愛のためでも部活のためでも

勉強のためでもありません。あらゆる可能性を抱きながら、

背筋をぴんと伸ばして、ワキをきゅってしめて、心拍数の上昇、上昇を意識しながら、国道4号線をひたすりに、ひたすりに走っておるのです。

姓は三御堂島（みみどうしま）。名はひより。「三御堂島ひより」と申します。

決まったっ。

【2】

入学式その折に、学校長の言うことにや、『勉強に部活、そして恋愛。手当たり次第に頑張ってください』

それを聞き私は舌打ちひとつ。ちっ。

勉強に部活に恋愛に？

そのすべてにベストを尽くせたならば、そりゃあ素晴らしい青春時代となるだろう。

が、故人曰く、光陰はまさに矢の如し。マッハで過ぎ行く日々の中、手当たり次第に手を出すなど愚の骨頂。うまく行こうはずがない。下手な鉄砲数撃ちや当たる、かもしれないが、弾の数には限りがある。惑わされることなく冷静に、何を為すかを定むれば、自ずと道は開けてこよう。

しかし、世の中そんなに甘くはない。耳に入ってくるのは諸先輩方の悲しき末路。

3年間、勉強にばかり励んでいても、受験に落ちることもある。

3年間、部活にばかり努めていても、スタメンになれないこともある。

3年間、恋愛にばかり勤しんでいても、ヤリ逃げされることもある。つまり、歩むべき道を複数作ってもダメだしひとつに決めてもダメなこと、

いつでも違う道にソフトチェンジできる場所に身を置くことこそ成功の鍵、ということかあつ。

幸いにしてこの私、
勉強もよし、部活もよし、ルックスは：言うまでもなくよし、であるが故に
いつ何時いかなる方向に進路定めようともチャラヘツチャラ。時勢を見誤ることなく慎重にことにあたれば、恐れることは何も無い。

と、

鼻息あらく入学式会場を後にした私は、突然横から走ってきた男子にドン。

「とはーっ」

リノリウムの床にしたたかに腰をうちつけ悶絶。

「なんたる所業。謝って済む問題ではないぞっ」
なっ：

見上げると、そこには身の丈五尺八寸ばかりなるオノコ。

ヤマピーとウエンツとモコミチとカメナシ君をミキサーでギューンってやったようなイケメン男子がスタンドバイミー。

『大丈夫？怪我はない？』と優しい言葉をかけられすぐに恋に落ちる私。

「あ、だ、大丈夫です」と答えれば、

『大丈夫ならよかったー』とオノコ、颯爽と帰路につく。

「待ってください。あなたのお名前なんてーの？」

との問いにオノコ答えて曰く、

『僕かい？僕の名前は男前田。男前田トオル。2年だよ』

：よい。かっこよい。

心奪われし私はすぐさま先輩の後をストーキング。

先輩の自宅が国道4号線沿いにあることをつきとめたのでした。

はーん。男前田先輩。お近づきになりたいーい。

付き合えたらいいのになーうふふ。

私の恋は、もう止められなーい。せんぱーい。

：って、何をしているっ。落ち着くのだ三御堂島ひより。

恋愛ごっこに打ち興じている場合ではないぞ。

部活と勉強にも精を出さねば、恋が実らなかつた時が怖い。

ということ、

女子駅伝部で汗流しながら、東大入学にロックオン。

それでいて、男前田先輩との接触を求めるが故に、

国道4号線を英単語帳見ながら先輩に会いたいと願ひ

ひたすらに走るといふ

折衷案としてはギリギリアウトな日課をこなしているうちに、

一年生の一学期は終わってしまった。

【3】

おおっ。さすがに中途半端な気がする。
二学期は部活に本腰を入れよう。

と、女子駅伝部の強化合宿に参加。走って走って走りまくる。
中学時代から優秀な駅伝選手として名を馳せていた私は、
先輩からの信頼を勝ち得、女子駅伝部のエースとなる日も近いだろうと、
周囲から期待のまなざしで見られご満悦。
同期のメンバーも素敵な連中ばかり。これは楽しくなりそうだし。

と言っている間に二学期は終わり。
もう一年生の三学期。

【4】

おおっ。しまった。

二学期は部活に力を入れすぎてしまったぞっ。
女子高生の本分たる学業、学業にもそつと力を注がねばっ。
なにしろ私は東大入学を目指すエリート女子高生なのだからな。
英語に世界史こと数学などは、一瞬たりとも気が抜けぬ。
赤本にかじりつきながら、ふと、

「そっいえば、愛しの男前田先輩は、今頃何をしてらっしゃるのだろう…」
と考えていると、
気づけば二年生の一学期。

【5】

は？馬鹿なっ。

入学してからもう一年がたってしまったというのかっ。おおおおいっ。
光陰矢の如しとはいえ、早いにもホドがあるぞ青春時代。
いや、過去を悔いても栓無きこと。前向きに、前向きに行動するのだ。

とりあえず…男前田先輩に会いたい。勉強はもちろん大事だが、会いたい。
私は年頃の生娘。恋の炎にこの身を焦がしたい。
自分の気持ちに素直になつて男前田先輩を待ち伏せ…たら会えました。

「先輩っ。覚えていますか私のこと？
一年前の入学式でどーんってぶつかつた女です」
あ、全然覚えていない。シヨック。しかし立ち直れ。

「だったら友達になってください」で、メアド交換の赤外線通信。二人は一気に急接近。
「えっ、先輩も、先輩も、あの東大への入学を志望しているんですかっ。なんて偶然なのでしょう。私もなのですよっ」と、二人はさらに急接近。

男前田せんぱーいっ。あーあ、私ってばすっかり恋の病。処方箋あったらいいのになー。
物憂げな表情で窓の外見れば、外はすっかり秋模様」

【6】

…って、秋模様？ はっ？
いつの間にか二年生の二期期になってるぞーいっ。きゃーっ。
部活やらないとっ。部活やらないとっ。秋といたらスポーツの秋っ。
大会も始まりまして、私はチームの要として試合に出場。したのですが、練習不足により平々凡々な成績で幕を下ろしましたとさ。

いかん…。
色恋沙汰にうつつを抜かしているうちに、駅伝がおろそかーになっていた。同期のメンバーちょーキレている。同期のメンバーちょーキレている。これは反省しなければ。
部活動は自分だけのものではない。仲間たちと分かち合うものだ。私ひとりの怠慢で、皆の青春に傷をつけてはならん。
責任の重さを、がっしり受け止めたっ。

「みんな、ごめんこっ。もっとまじめにやります駅伝。私、みんなと輝かしい瞬間手に入れたーい」

『…そんなの、私もよ』

「部長…」

『私も』

「副部长…」

『私も』

「キャプテン…」

『私も私も。私も私も』

「みんなー」『わー』

女子駅伝部は一つになったー。
来年は頑張ろう。来年は、頑張るからね。

とかやったら…
もーう二年生の三学期なんだよねー…。

【7】

：おいおい、勉強滞ってるよー。
こんなんじゃ東大なんて夢のまた夢だぜー。

計画を立てるべきではないのかね。はいそうですね。

恋愛、部活、勉強があるわけだが、
ひとまず恋愛は諦めよう。

男前田先輩は今頃、東大の受験をしているだろう。
合格しちゃったら上京しちゃって会えなくなっちゃうし。
ってか付き合ってるわけでもないし。

あと部活の女子駅伝だが、これはとにかく来年の夏。
夏の引退まではがんばろう。

私が抜けてチームの負担を大きくするなど言語道断。
夏までは、三年生の二学期まではがんばるぞ。

ということ、

二年生の三学期はひたすら勉強勉強に力を入れまくり、
比較的有意義に過ごせたまま、

今は三年生の一学期。

【8】

よし、よしよし。

順調に物事進めてる自分へのご褒美。

久方ぶりに男前田先輩にメールをして近況を報告しあおう。メール送信。
案ずるな。恋愛に発展させるつもりはない。
すわ、返ってきた。

『受験落ちました。一年浪人してまたがんばります』

：なんてことだった。先輩っ、てっきり東大にご入学だと思っていたのに…。
詳しく聞くと地元の予備校に通っているらしく、
え？ってことは先輩まだこの周辺に生息している？

ウレシス。正直ウレシス。
先輩にまた会える？

しかも先輩と私は今、同じ目標に向かって頑張っている？
急接近の予感。

再び急接近の予感。なので、物理的な意味で急接近してみました。

【9】

「せんばーい。すいませーん、ちょっと遅れちゃいましたー」

ちやっ。これはデートにあらず。東大入学という志を同じくする二人の、図書館における勉強会、情報交換会なり。

ま、お弁当作ってきちゃいましたけど、ぐふふ。

ちやっ。勉強会。ぜんぜん勉強会ですよ。

だから先輩が帰りに送ってくれなくても気にしません。むしろ私が先輩をご自宅までお送り仕る。

：国道4号線を並んで歩く2人。

世の人はいかなる目で見るのやら。ふっ。

ちやっ。勉強会。ぜんぜん勉強会ですよ。

だから先輩が手をつないでくれなくても気にしません。ましてAとかBとかCとかいやーん。そんなの期待しておりませんのでっ。

「先輩…いざさらば…。またメールします」

時すでに酉の刻。門限近し。すみやかに帰らん。

…あら？

女子駅伝部の同期、部長、副部长、キャプテンのお偉いトリオに囲まれている。

「おっつー。どうしたのー」

と軽々しく声かけられない感じの空気。

「あれ？ …い、いかがいたした、お三方。」

大会が、終わった…？

はい？大会が終わったってそんなバカな。だって今は…三年生の…三学期…。なんと。

浮かれている間に、三年生の三学期になっていもんそ。

あれ？二学期の…記憶がない…。

「あー、大会、終わっちゃったんだー」

あー、しかも、負けちゃったんだー。県大会で」

と、のんきな声上げたらばいきなりビーンタを頂戴し、

『大会に出ないんだったら部活なんかやるなよ』

『中途半端な気持ちでやられちゃ困るんだよ』

『死ね』『ゴミ』『カス』『ブス』

…いや待て。反論させてもらおう。

「たしかに私は君らお三方と違って、部活一筋というわけではなかったが、その何が悪い。

部活のためだけに、勉強や恋愛など他の道を捨てるなど馬鹿げている。

私は駅伝以外にも様々な可能性を秘めているのだぞ。

それが君たちとよきたら、部活一筋とは言いながら、

プロになれるほどの能力はまるでなく、

頭も悪ければオノコに愛されることもなく、

単に部活にしがみついているだけ。

はつきり言ってるやろう。君たちの青春の歩み方は大きく間違った。

青春は結果こそすべて。何を為したかで決まるのだ。

おめでとう。

君たちの青春は、県大会敗退という素晴らしい栄誉に飾られた。君たちの無駄な努力に、心からの祝福と賛辞を」

…我ながら言い過ぎてはいる。

が、しかし、愚鈍な者を見るのは我慢ならん。

連中とよきたら、部活さえやったら幸せになれると思ってる。

あそこまで馬鹿だと哀れむ気すらおきんな。

しかし、これでよい。

もう部活に気を揉む必要はなくなった。

東大入学を目指し、ひたすらに勉強すればよいのだ。

男前田先輩と一緒にね。きやつ。

せんぱーい。会いたいよー。でもだめー。

今はいつの間にもやら三年生の三学期。受験間近。

勉強以外の何事にも心乱されてはなりませんぞ。

ひたすらに受験勉強に集中したラストスパート青春時代。も、過ぎちまえばあつという間で、あとは試験の結果を待つばかり。

うかれー。私も先輩もうかれー。大宰府天満宮うー。

って祈りを捧げていたのですが、結果は…。

…気にすることではない。

腐っても東大。現役で合格できるほうがおかしいのだ。おかしいのだつ。

男前田先輩だって浪人したではないか。

って先輩はっ？
先輩の合否、気になるー。正直、落ちててほしいなあ。
そしたらまた一緒に図書館で勉強が…って、なんというこをつ。
先輩の真の幸せ願うなら合格を望むことこそジャスティス。
うるたえるか、三御堂島ひより。

とにかく先輩に会いに行こう。
メールや電話じゃ怖くて聞けない。から、
防寒具に身を包み、小銭ポケットに忍ばせて先輩の家へアポなし出発。

【9】

せ、す、じ、を

ピンと伸ばして、ワキをきゅってしめて、
心拍数の上昇、上昇を意識しながら、
国道4号線をひたすらに、ひたすらに走っております私は、
女子高生。

途中、空を見上げると、
茜色に染まった空をカラス、カラス、カラスが飛んでいく。
えも言われぬ哀愁を感じ、あーあ、先輩…とつぶやいてみたら、
その瞬間、その瞬間、
目の前が真っ暗になりました。

【10】

気がつくと、

国道4号線の脇の草むらに寝ていて、寝ていて？倒れていて、後頭部には鈍いあまりにも鈍い痛み。後頭部だけではなく全身に刺すような刺すような痛み、いや痛みじゃなくてこれは寒さ。2月の風が冷たすぎて刺すように痛い。っていやいや私、服着てないじゃん。目の前には茜色に染まった空をカラス、カラス、カラスってこれはさっきと同じ。かと思っていると、あら。倒れている私の顔を覗き込む女子駅伝部のお三方。何をなさるおつもりかしら。おやおや？お偉いトリオは私の両手両足をとり押さえている。トリオでトリオさえる、なんてな。視界の脇に視界の脇に？視界の隅に？まーとにかく右目のこっちの方にですね赤いバットが転がってるのを確認しましたが、あ、違う違う違う。赤いバットじゃなくて血だ。すごい量の血がついてバットが赤く見えてるだけなんで赤いバットっていうとちよつと語弊がありますね。キャプテンが部長にバット渡して「やりな」って言ったけど部長が「無理無理」って言ったもんでキャプテンは「じゃアンタ」って言って副部長にバット渡したら「おーけー」って言ってバット受け取る副部長。おやおや？何するんですし？彼女たちは何するんですし？ぐいぐいと私の両足が開かれた。開かされた。おやおや？何するんですし？彼女たちは何するんですし？わからない何もわからない。ので私はひとまず頭の中で世界史の問題を復習する。赤本に載っていた過去問だ。「17世紀から18世紀のヨーロッパ社会における市民革命の広がりについて300文字以内で論じよ」という記述式の問題。基本用語でマスメを埋めるのは容易いが難しいのはイギリス革命とフランス革命の関連を簡潔にまとめるところだな。3人は私の下半身のあたりを何やらガサゴサガサゴソやっているが知らない知らないこんなやつらのことなど知らないこんなやつらのことなど知るものか勉強だ。今、私は勉強をしているのだ。輝かしい未来に向かって勉強をしているのだ。勉強の時間これは勉強の時間。他の何でもない。ざらり。冷たいバットの感触が太ももに伝わってきた。気がするな考えるんだ。議会派と国王派の対立から始まったイギリス革命と市民が中心となって始まったフランス革命をどの部分で関連付ける？イデオロギーか社会経済の状況かそれとも、耳元で、キャプテンが囁いた。

「青春は結果こそすべて。何を為したかで決まる。んだよねー？」

【11】

世界史の、記述式問題の、解答の、
おおかたの方向性が見えたところで、
私はゆっくり立ち上がった。

空は、夕焼け…じゃねーなコレ朝焼けだ。

一晩中ここに寝てたわけだ。私の、

服は全部そこにあって、何故かきれいにたたんであって、
ちやっちやと着て、あーそうだ。

先輩の、受験の結果聞きに行く途中だったんだ。ってのを思い出して。

背筋をぴんと伸ばして、ワキをきゅってしめて、

心拍数の上昇、上昇を意識しながら、

国道4号線をひたすらに、ひたすらに走っていけば、

どんだんどんだん頭から血が出てくる。

拭いても拭いても出てくるもんだから途中から愛しくなってきたって、

拭くのなんかやめちゃって先輩の家の前まで来て先輩を電話で呼び出した。

「…あ。すみませんこんな…朝早くに」

先輩は

へーぜんとそこに立っていて

ちーっとも動揺してなくて

じーっとな私目を

じーっとな見つめていて

「あ…あのですね、受験失敗しました一年…浪人します」

っていう自分の報告を終えて、

「あ…先輩は…」

「あ…先輩は…」

「っつか、

キスしてください」

「キスしてあげましょうよ。ね」

先輩はよしよしって言って、よしよしって私の血だらけの頭を、
野良犬だか野良猫だかを撫でるように、撫でて撫でて唇に、

小さくキス、

と思ったら、

おでこに小さくキスをしてくれたのでした。

(おでこかよ。おでこかよ。なめんじやねえよなんだよおでこって。なめんじやねえよこども扱いしてんじやねえよ。インポ野郎ロリコン野郎ざけんじやねえぞ)

ってね、ってね、

頭の中では罵詈雑言がリピート、罵詈雑言がリピートされてるんだけど、口がさ、肝心要の口がさ、

キスされるもんだと思って大人しく待っていた口がさ、頭の中で無尽蔵に製造されていく罵詈雑言たちを先輩に届けてくれなくて、

(おい何してんだ。何か言え。何か言え。何か言え。何か言え。何でもいいから何か言ってやれっ)

って命令したら、

「あ…。」

ありがとうございます」

ぐーっ。

危ない。それだけは、それだけは言ってはなるものかっ。

ありがとうなんて、ありがとうなんて言わない。

心臓がぎゅーって苦しい。苦しい。

私はポケットをこそこそやって、

(武器武器武器武器武器。武器はないか？武器はないか？何か武器はないのか？)

と探したら、

千円札三枚が右ポケットに入っていて、あーこいつは調度いい。

「お返しにこれあげます」ってぼそつと言って先輩の顔面にその三千円を投げつけた。

かったんだけどね、投げつける瞬間に(もったいね)って思っちゃって、千円だけ千円だけ千円だけ抜いちゃって、結局投げつけたのは二千円。

先輩は
へーぜんとそこに立っていて
ちーっとも動揺してなくて
じーっと私の目を
じーっと見つめていて、

あ、おでこにキスしてくれたから口のまわり血だらけなんだけど私の。
なんだか魂ぬけたよーな顔だなーって思ったんだけど違う違う。
魂ぬけたよーな顔してんのは多分私の方だね。

しばらく呼吸を忘れていたらしく意識がふっと遠のく感覚があったので
無理矢理。

無理矢理大きく息を吸い込んで脳に酸素を送ってあげたら
視界が驚くほどクリアになって先輩の、
頬に生えている産毛一本一本をちゃんと確認できるようになったので私は、
その産毛たちをその場から走り去るきっかけにして走り去りました。

背筋をぴんと伸ばして、ワキをきゅってしめて、
心拍数の上昇、上昇を意識しながら、

国道4号線をひたすらに、目的地も定めずに走りだせば、
私の肺の中に明け方のつめたーい空気がどんどん入ってくる。
ああ、これはまるでレイプだ。
私の心肺機能が清らかな空気に汚されていく。

なんてチープ、チープな想像しちゃったもんだから、
気持ち悪くて気持ち悪くて路肩に、
いつ食べたんだか全く覚えていない麺類をだあーって戻しちゃったよ。
ガードレールに両手ついてほしい戻しちゃったよ。
口の中が胃酸まみれで酸っぱくなつて不快感まりないから
意識を両手の方に集中、集中させたらばびっくり。
ガードレール凍ってる？凍っている？って感じに冷たいの。
これ、頭つけたら気持ちよさそーだなーって思っただけで実行。
火照った体もとい火照った頭にガードレールはすごい気持ちよくて、
あー気持ちいい。ちよつとコレまじで気持ちいいんですけど。
なんかふあーって、なんかふあーってしっちゃって
胃に残ってるもん全部だあーって戻しちゃった。
っていやいや、それと同時にさ、
パンツん中凍ってる？凍っている？って感じに冷たいの。
あ、やべ。もらしっちゃった。

って何を？
何をもらしたー？ おしっこ？ 血？ それとも何？

確認するのもダリーので再度、意識を両手の方に集中、集中させたならばびっくり。

：何なんだよこの千円。なぜ投げつけなかった。サツ全部投げつけて先輩からのおでこキスの価値を三千円ほっちに貶めりゃよかったのに、反射的に抜いちゃったこの千円、この千円のおかげでなんだか自分の価値もこんくらいだ。

なんてチープ、チープな錯覚おこしちゃったもんだから、気持ち悪くて気持ち悪くて路肩に、胃に残ってるもん全部だあーって戻しちゃった。

かったんだけどね、

いやいや、もう何も出てきませんよ。

あー。

胃酸で歯が溶けちまいそうだ。

とりあえず両足でちゃんと立とう。

そうだ。

この千円で、

先輩のキスを買おう。買おう。

今度は絶対、口に、してもらおう。ってか言おう。

「口に、口でキスしてください」とな。

先輩が私の口にキスしたら、私の口は胃酸まみれなので、先輩の白くてやらかい歯なんて全部溶けるさ。いや、全部溶かすさ。

なんてチープ、チープな妄想してみたら、

おおっ。

心が躍りだした。

この感情がつるんと逃げないうちにやれることはやっておきましょう。

背筋をぴんと伸ばして、ワキをきゅってしめて、

心拍数の上昇、上昇を意識しながら、

国道4号線をぐるりと引き返し、

先輩の家を目指し走り出した私は、

三年間の高校生活の締めくくりとして、

数分後には先輩と、

『いまさらキスシーン』

キスをします。

※ 上演を希望する際は、有料・無料に関わらず、必ず劇団までご連絡いただき、戯曲使用の許諾をお受けください。

了